



日頃から厳しい訓練を重ね、災害時の消火活動や救出活動に従事する消防団



難勧告や指示を自動放送するシステム  
放送は、屋外拡声機や6つの集落ごとに設置された消防防災センターのほか、村内のほぼ全世帯約1500戸にも戸別受信機を設置して、どんな場所においても村民が情報を入手できる体制を整えています。

また、津波による被害が心配される島越・羅賀地区では、防潮堤の改修や防波堤の高上げ工事などを継続して実施しています。

ソフト面での対策は、防災訓練や防災シンポジウムの開催による啓発活動ですが、それ以上に重要視しているのが住民による自主防災組織の確立。断崖や沢など入り組んだ地形の田野畑では物理的な連携が難しく、各地の住民が全員で災害に対処する以外にありません。防災意識が高い島越・羅賀・明戸地区ではすでに自主防災組織が結成され、独自で避難路も整備。他地域でも消防団を中心に、共同で災害に対処する取り組みが始まっています。

また、総合的な交通安全対策の推進と犯罪のない村づくりを推進していく、交通安全・地域安全活動も積極的に展開しています。

自分の命は自分で守る。住民の高い危機意識が、田野畑の防犯・防災システムを支えています。

キーワード  
【安心・安全】  
Peace & Safety

# 防災・防犯に対処する さまざまな取り組み

明治・昭和の大津波を経験した田野畑では、現在でも災害に対する取り組みが進められています。自主防災組織の結成や地震発生時に自動で状況を放送するシステム導入など、現代の知恵を多用し安全な村づくりを進めています。



1 役場1階に設置された防災行政無線の放送室。災害時に素早く対応できる体制になっています  
2 交通安全キャンペーンの様子  
3 昭和8年の三陸大津波での被害状況（島越）



「地震情報等情報システム」は、震度3以上の地震を役場の震度計が感知した場合に自動的に作動。屋外・戸別受信機にアナウンスが流れます。震度3、4の場合はチャイムなしで地震の発生と避難勧告にともなう確認事項をくりかえし放送。震度5以上の場合はサイレン吹鳴のあと避難指示についての情報が行われます。なお村の地域防災計画では、震度3、4と津波注意報・警報時は「避難勧告」、震度5以上と大津波警報時は「避難指示」を発令することが定められています。

地震や台風、豪雨など自然災害はさまざまな種類がありますが、田野畑で最も心配される災害は地震とそれに伴って起こる可能性のある津波。村は明治29年と昭和8年に「三陸大津波」という大災害を経験してはいるものの、地形や時代など諸要因のかかり合いにより、必ずしも過去の教訓が生かされるとは限りません。今の時代に則した防災の在り方は、この難問に、村ではハード、ソフト両面から対策を進めています。

ハード面での対策は、平成17年に運用を開始した「地震情報等情報システム」があります。これは震度3以上の地震を感知した時に情報連絡施設を通じ、避